

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 近畿財務局長

【提出日】 2020年1月14日

【四半期会計期間】 第54期第3四半期(自 2019年9月1日 至 2019年11月30日)

【会社名】 エスフーズ株式会社

【英訳名】 S Foods Inc.

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 村上真之助

【本店の所在の場所】 兵庫県西宮市鳴尾浜1丁目22番13

【電話番号】 (0798)43局1065番

【事務連絡者氏名】 取締役管理本部長  
湯浅庸介

【最寄りの連絡場所】 兵庫県西宮市鳴尾浜1丁目22番13

【電話番号】 (0798)43局1065番

【事務連絡者氏名】 取締役管理本部長  
湯浅庸介

【縦覧に供する場所】 エスフーズ株式会社東京支店  
(千葉県船橋市浜町3丁目2番3)

株式会社東京証券取引所  
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

## 第一部 【企業情報】

### 第1 【企業の概況】

#### 1 【主要な経営指標等の推移】

回次	第53期 第3四半期 連結累計期間	第54期 第3四半期 連結累計期間	第53期
会計期間	自 2018年3月1日 至 2018年11月30日	自 2019年3月1日 至 2019年11月30日	自 2018年3月1日 至 2019年2月28日
売上高 (百万円)	251,171	260,937	338,781
経常利益 (百万円)	8,746	7,552	11,344
親会社株主に帰属する 四半期(当期)純利益 (百万円)	5,619	4,140	7,185
四半期包括利益又は包括利益 (百万円)	3,082	2,125	1,178
純資産額 (百万円)	87,932	86,260	86,028
総資産額 (百万円)	174,260	177,200	165,062
1株当たり四半期(当期)純利益金額 (円)	177.45	130.74	226.90
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益金額 (円)	-	-	-
自己資本比率 (%)	47.0	45.2	48.5

回次	第53期 第3四半期 連結会計期間	第54期 第3四半期 連結会計期間
会計期間	自 2018年9月1日 至 2018年11月30日	自 2019年9月1日 至 2019年11月30日
1株当たり四半期純利益金額 (円)	49.87	54.11

- (注) 1. 売上高には、消費税等は含まれておりません。  
 2. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。  
 3. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。  
 4. 「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」(企業会計基準第28号 2018年2月16日)等を当第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、前第3四半期連結累計期間及び前連結会計年度に係る主要な経営指標等については、当該会計基準等を遡って適用した後の指標等となっております。

#### 2 【事業の内容】

当第3四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)において営まれている事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社についても異動はありません。

## 第2 【事業の状況】

### 1 【事業等のリスク】

当第3四半期連結累計期間において、当四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項の発生又は前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」についての重要な変更はありません。

なお、重要事象等は存在していません。

### 2 【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

#### (1) 業績の状況

当第3四半期連結累計期間における日本経済は、米中の覇権争いによる不安定な国際経済情勢に加え、国内では消費増税による消費者マインドの冷え込みがあり、全体的には低調に推移しました。当食肉業界におきましては、低価格や人件費・物流費の増加などのため、厳しい状況が続いております。

このような経営環境のもと、当社グループは、かねてから食肉の生産から小売・外食までの食肉事業の垂直統合を推進しておりますが、それら事業の内容を充実させ事業間の関係を緊密にすることにより、経営体質の強化と安定的な成長を目指しました。

食肉等の製造・卸売事業においては、食肉の安定供給能力を確保するため、原料調達力の強化のための施策を着実に実行しました。現在、国内のみならず、米国、豪州、ニュージーランドで食肉事業を進めており、継続的・戦略的に事業拡大を図ってまいります。食肉加工品においては、定番アイテム「こてっちゃん牛もつ鍋」シリーズに加え「レンジでひと皿」シリーズや「下ごしらえ」シリーズなどのラインアップで秋冬製品の販売強化に努めました。また、11月には千葉県船橋市に建設中であった新東京支店のうち、ミートセンター部分が完成し稼働を始めました。

食肉等の小売事業においては、新業態の店舗にも挑戦した他、継続的にイベント型の販売提案や、レイアウト再構築等の既存店活性化を実施し、また従業員の知識、技術向上による商品及び接客レベル改善を目指し、肉のマイスター制度をさらに浸透させてまいりました。

食肉等の外食事業においては、ステーキレストランチェーン事業及び焼肉・しゃぶしゃぶチェーン事業において、メニューの考案や不採算店対策等、競争力向上のための施策を実施してまいりました。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間の業績は、売上高2,609億3千7百万円（前年同四半期比3.9%増）、損益面につきましては、取扱量は伸ばしたものの海外事業を中心に粗利率が低迷したこと、物流費などの販売費及び一般管理費が上昇したこと等により営業利益72億5千7百万円（前年同四半期比13.0%減）、経常利益75億5千2百万円（前年同四半期比13.6%減）、親会社株主に帰属する四半期純利益41億4千万円（前年同四半期比26.3%減）となりました。

続いて、セグメントごとの業績は次のとおりであります。なお、売上高は外部顧客への売上高を記載し、セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

#### 食肉等の製造・卸売事業

売上高は2,382億7千8百万円（前年同四半期比4.5%増）、セグメント利益は73億2百万円（前年同四半期比8.9%減）となりました。

#### 食肉等の小売事業

売上高は156億7千3百万円（前年同四半期比3.6%減）、セグメント利益は6億2千8百万円（前年同四半期比23.0%減）となりました。

#### 食肉等の外食事業

売上高は59億6千1百万円（前年同四半期比2.3%増）、セグメント利益は2億4千8百万円（前年同四半期比3.8%減）となりました。

#### その他

売上高は10億2千4百万円（前年同四半期比0.2%増）、セグメント利益は1億1千3百万円（前年同四半期比23.7%増）となりました。

(2) 財政状態の分析

当第3四半期連結会計期間末における総資産は、前連結会計年度末に比べて121億3千7百万円増加し、1,772億円となりました。これは主に、現金及び預金の減少、保有株式の時価の下落による投資有価証券の減少の一方で、売上高増加に伴う売上債権、たな卸資産の増加、設備投資に伴う建物及び構築物の増加によるものです。

当第3四半期連結会計期間末における負債は、前連結会計年度末に比べて119億5百万円増加し、909億3千9百万円となりました。これは主に、繰延税金負債の減少の一方で、売上高増加に伴う仕入債務の増加及び借入金の増加によるものです。

当第3四半期連結会計期間末における純資産は、前連結会計年度末に比べて2億3千2百万円増加し、862億6千万円となりました。これは主に、その他有価証券評価差額金の減少の一方で、利益剰余金の増加によるものです。

(3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第3四半期連結累計期間において、当社グループが対処すべき課題について重要な変更はありません。

(4) 研究開発活動

当第3四半期連結累計期間の当社グループが支出した研究開発費の総額は1億7千6百万円であります。

3 【経営上の重要な契約等】

当第3四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

### 第3 【提出会社の状況】

#### 1 【株式等の状況】

##### (1) 【株式の総数等】

###### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	120,000,000
計	120,000,000

###### 【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間末 現在発行数(株) (2019年11月30日)	提出日現在 発行数(株) (2020年1月14日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	32,267,721	32,267,721	東京証券取引所 (市場第一部)	単元株式数 100株
計	32,267,721	32,267,721	-	-

##### (2) 【新株予約権等の状況】

###### 【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

###### 【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

##### (3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

##### (4) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
2019年11月30日	-	32,267,721	-	4,298	-	11,881

##### (5) 【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(6) 【議決権の状況】

当第3四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日（2019年8月31日）に基づく株主名簿による記載をしております。

【発行済株式】

2019年8月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 596,900	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 31,655,700	316,557	-
単元未満株式	普通株式 15,121	-	-
発行済株式総数	32,267,721	-	-
総株主の議決権	-	316,557	-

(注) 「単元未満株式」欄の普通株式には、証券保管振替機構名義の株式が220株含まれております。

【自己株式等】

2019年8月31日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式総数 に対する所有株 式数の割合(%)
(自己保有株式) エスフーズ株式会社	兵庫県西宮市鳴尾浜 1丁目22番13	596,900	-	596,900	1.85
計		596,900	-	596,900	1.85

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

## 第4 【経理の状況】

### 1. 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（2007年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

### 2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期連結会計期間（2019年9月1日から2019年11月30日まで）及び第3四半期連結累計期間（2019年3月1日から2019年11月30日まで）に係る四半期連結財務諸表について、有限責任 あずさ監査法人により四半期レビューを受けております。

## 1 【四半期連結財務諸表】

## (1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2019年2月28日)	当第3四半期連結会計期間 (2019年11月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	40,410	24,586
受取手形及び売掛金	33,157	40,767
商品及び製品	17,974	26,835
仕掛品	920	1,194
原材料及び貯蔵品	3,141	3,918
その他	2,985	4,295
貸倒引当金	157	133
流動資産合計	98,432	101,464
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	37,336	52,088
減価償却累計額	22,889	24,169
建物及び構築物(純額)	14,447	27,918
土地	17,069	17,285
その他	35,367	34,771
減価償却累計額	20,987	22,250
その他(純額)	14,379	12,520
減損損失累計額	1,580	1,893
有形固定資産合計	44,315	55,831
無形固定資産		
のれん	237	186
その他	463	540
無形固定資産合計	701	726
投資その他の資産		
投資有価証券	18,321	16,077
退職給付に係る資産	122	118
その他	3,473	3,261
貸倒引当金	304	279
投資その他の資産合計	21,612	19,178
固定資産合計	66,630	75,736
資産合計	165,062	177,200



(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2019年2月28日)	当第3四半期連結会計期間 (2019年11月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	27,760	34,850
短期借入金	8,290	8,670
未払法人税等	1,823	854
賞与引当金	974	1,547
その他	10,448	11,751
流動負債合計	49,298	57,674
固定負債		
社債	1,250	1,150
長期借入金	22,475	27,104
役員退職慰労引当金	208	202
退職給付に係る負債	1,952	1,924
その他	3,848	2,883
固定負債合計	29,735	33,265
負債合計	79,033	90,939
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	4,298	4,298
資本剰余金	18,691	18,707
利益剰余金	50,126	52,430
自己株式	421	418
株主資本合計	72,695	75,018
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	6,921	4,761
繰延ヘッジ損益	13	6
為替換算調整勘定	365	238
退職給付に係る調整累計額	8	3
その他の包括利益累計額合計	7,282	5,010
非支配株主持分	6,050	6,232
純資産合計	86,028	86,260
負債純資産合計	165,062	177,200

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自2018年3月1日 至2018年11月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自2019年3月1日 至2019年11月30日)
売上高	251,171	260,937
売上原価	215,445	225,283
売上総利益	35,726	35,653
販売費及び一般管理費	27,381	28,396
営業利益	8,345	7,257
営業外収益		
受取利息	42	36
受取家賃	112	110
受取配当金	310	326
その他	300	300
営業外収益合計	765	773
営業外費用		
支払利息	161	210
為替差損	92	160
賃貸原価	44	42
その他	66	63
営業外費用合計	364	477
経常利益	8,746	7,552
特別利益		
固定資産売却益	4	3
投資有価証券売却益	101	13
補助金収入	35	-
負ののれん発生益	-	30
受取保険金	25	88
受取補償金	-	34
その他	6	-
特別利益合計	174	169
特別損失		
固定資産処分損	47	199
減損損失	55	473
店舗閉鎖損失	9	4
災害による損失	35	33
その他	9	0
特別損失合計	157	711
税金等調整前四半期純利益	8,763	7,011
法人税等	2,880	2,615
四半期純利益	5,882	4,395
非支配株主に帰属する四半期純利益	263	255
親会社株主に帰属する四半期純利益	5,619	4,140

【四半期連結包括利益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2018年3月1日 至 2018年11月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2019年3月1日 至 2019年11月30日)
四半期純利益	5,882	4,395
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	2,879	2,157
繰延ヘッジ損益	12	20
為替換算調整勘定	81	116
退職給付に係る調整額	11	5
持分法適用会社に対する持分相当額	3	10
その他の包括利益合計	2,800	2,269
四半期包括利益	3,082	2,125
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	2,801	1,868
非支配株主に係る四半期包括利益	280	257

【注記事項】

( 四半期連結財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理 )

	当第3四半期連結累計期間 (自 2019年3月1日 至 2019年11月30日)
税金費用の計算	当社及び一部の連結子会社については、当連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算する方法を採用しております。

( 追加情報 )

( 「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」の適用に伴う変更 )

「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」( 企業会計基準第28号 2018年2月16日 ) 等を当第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、繰延税金資産は投資その他の資産の区分に表示し、繰延税金負債は固定負債の区分に表示しております。

( 四半期連結貸借対照表関係 )

保証債務

連結会社以外の会社等の金融機関からの借入に対して、次のとおり債務保証( 連帯保証 ) を行っております。

	前連結会計年度 (2019年2月28日)		当第3四半期連結会計期間 (2019年11月30日)
株式会社カーサ	170百万円	株式会社カーサ	155百万円
株式会社遠野牧場	405百万円	株式会社遠野牧場	339百万円
マスターファーム株式会社	24百万円	マスターファーム株式会社	6百万円
株式会社日高はなはなファーム	451百万円	株式会社日高はなはなファーム	424百万円
株式会社豊頃中央農場	598百万円	株式会社豊頃中央農場	572百万円
株式会社十勝中央農場	703百万円	株式会社十勝中央農場	672百万円
S FOODS SINGAPORE PTE.LTD.	608百万円	S FOODS SINGAPORE PTE.LTD.	661百万円
S FOODS NZ LIMITED	1,043百万円	S FOODS NZ LIMITED	966百万円
株式会社すぎもとファーム千代ヶ岡	1,000百万円	株式会社すぎもとファーム千代ヶ岡	945百万円
株式会社ドリームグラウンド	200百万円	株式会社ドリームグラウンド	1,000百万円
金丸 一男他2社	136百万円	株式会社サバイファーム	500百万円
		金丸 一男他2社	126百万円
計	5,343百万円	計	6,369百万円

( 四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係 )

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費( のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。 )、のれんの償却額は、次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自 2018年3月1日 至 2018年11月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2019年3月1日 至 2019年11月30日)
減価償却費	2,444百万円	3,215百万円
のれん償却額	46百万円	51百万円

(株主資本等関係)

前第3四半期連結累計期間(自 2018年3月1日 至 2018年11月30日)

1 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2018年5月22日 定時株主総会	普通株式	759	24.00	2018年2月28日	2018年5月23日	利益剰余金
2018年10月12日 取締役会	普通株式	886	28.00	2018年8月31日	2018年10月31日	利益剰余金

2 基準日が当第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

当第3四半期連結累計期間(自 2019年3月1日 至 2019年11月30日)

1 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2019年5月22日 定時株主総会	普通株式	886	28.00	2019年2月28日	2019年5月23日	利益剰余金
2019年10月11日 取締役会	普通株式	950	30.00	2019年8月31日	2019年10月31日	利益剰余金

2 基準日が当第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第3四半期連結累計期間(自2018年3月1日至2018年11月30日)

1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結損 益計算書計上 額(注)3
	食肉等の 製造・卸売事業	食肉等の 小売事業	食肉等の 外食事業	計				
売上高								
外部顧客への売上高	228,066	16,255	5,826	250,149	1,022	251,171	-	251,171
セグメント間の内部 売上高又は振替高	6,079	29	294	6,403	148	6,551	6,551	-
計	234,146	16,285	6,121	256,552	1,171	257,723	6,551	251,171
セグメント利益	8,015	816	258	9,090	91	9,182	837	8,345

(注)1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、飲料水製造・販売事業及び冷蔵倉庫業等であります。

2. セグメント利益の調整額 837百万円には、セグメント間取引消去 19百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用 818百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない親会社及び一部子会社の間接部門の一般管理費であります。

3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

重要な該当事項はありません。

当第3四半期連結累計期間(自2019年3月1日至2019年11月30日)

1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結損 益計算書計上 額(注)3
	食肉等の 製造・卸売事業	食肉等の 小売事業	食肉等の 外食事業	計				
売上高								
外部顧客への売上高	238,278	15,673	5,961	259,913	1,024	260,937	-	260,937
セグメント間の内部 売上高又は振替高	5,925	43	285	6,253	143	6,397	6,397	-
計	244,203	15,716	6,247	266,167	1,168	267,335	6,397	260,937
セグメント利益	7,302	628	248	8,180	113	8,293	1,036	7,257

(注)1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、飲料水製造・販売事業及び冷蔵倉庫業等であります。

2. セグメント利益の調整額 1,036百万円には、セグメント間取引消去 27百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用 1,009百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない親会社及び一部子会社の間接部門の一般管理費であります。

3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

当連結会計年度(自2019年3月1日至2019年11月30日)

(単位:百万円)

	報告セグメント				その他	全社・消去	合計
	食肉等の 製造・卸売事業	食肉等の 小売事業	食肉等の 外食事業	計			
減損損失	461	8	3	473	-	-	473

(企業結合等関係)

重要な該当事項はありません。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前第3四半期連結累計期間 (自 2018年3月1日 至 2018年11月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2019年3月1日 至 2019年11月30日)
1株当たり四半期純利益金額	177.45円	130.74円
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益金額 (百万円)	5,619	4,140
普通株主に帰属しない金額(百万円)	-	-
普通株式に係る親会社株主に帰属する 四半期純利益金額(百万円)	5,619	4,140
普通株式の期中平均株式数(株)	31,665,866	31,668,738

(注)潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

## 2 【その他】

第54期（2019年3月1日から2020年2月29日まで）中間配当については、2019年10月11日開催の取締役会において、2019年8月31日の株主名簿に記録された株主に対し、次のとおり中間配当を行うことを決議いたしました。

配当金の総額	950百万円
1株当たりの金額	30円
支払請求権の効力発生日及び支払開始日	2019年10月31日



## 第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

## 独立監査人の四半期レビュー報告書

2020年1月10日

エスフーズ株式会社  
取締役会 御中

有限責任 あずさ監査法人

指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	浅井	愁星	印
指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	溝	静太	印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられているエスフーズ株式会社の2019年3月1日から2020年2月29日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間（2019年9月1日から2019年11月30日まで）及び第3四半期連結累計期間（2019年3月1日から2019年11月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

### 四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

### 監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、エスフーズ株式会社及び連結子会社の2019年11月30日現在の財政状態及び同日をもって終了する第3四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。

2. XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。